

平成 29 年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月3日実施)	総合評価(3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>(1)学力向上進学重点校エントリー校にふさわしい教育課程を編成・実施する。</p> <p>(2)生徒と教員で質の高い授業を創造することで、自学自習の態度を育成する。</p> <p>(3)アクティブ・ラーニングの視点からの不断の授業改善を進める。</p> <p>(4)文理を問わず生徒の知的探究心を刺激する取組みを推進して将来自然科学分野で活躍できる人材育成を図る。</p> <p>(5)国際的視野の涵養と豊かな語学力・コミュニケーション能力の育成を図り、グローバル人材の育成を図る。</p>	<p>①学校全体での授業改善へ向けた実践的な取組みの充実を図る。</p> <p>②多様な学びの機会を組織的・計画的に実施し、基礎・基本の定着と発展・応用の伸長を図る。</p> <p>③アクティブ・ラーニングの視点からの授業の改善を図る。</p> <p>④科学との関わりを意識した課題研究活動の充実を図りSSH申請に向けた教育課程の研究開発を進める。</p> <p>⑤生徒が英語に触れる機会を充実するとともに、授業以外の場面においても積極的に英語でコミュニケーションする姿勢や態度を育成する。</p>	<p>①生徒による授業評価の分析結果を迅速に伝える。</p> <p>②カリキュラム・マネジメントに係る職員全体研修の実施と共に、年間を通じた教科ごとの情報共有・授業改善の充実に取り組む。</p> <p>③生徒による授業評価やアクティブ・ラーニングの視点からの評価アンケートを組織として分析し、生徒・保護者に公表する。</p> <p>④科学との関わりを意識した課題研究活動の充実を図りSSH申請に向けた教育課程の研究開発を進める。</p> <p>⑤英検、GTEC、TOEIC等の資格試験に係る周知と受験の促進を図り、英語によるコミュニケーション能力の育成を図る。</p>	<p>①生徒による授業評価の分析結果を迅速に伝えることができたか。</p> <p>②授業内容・進捗、定期試験の共通化の取組が進んだか。</p> <p>③生徒による授業評価の項目4における「4 かなり当てはまる」の回答率が5割以上となったか。</p> <p>④課題研究を通じた探究活動を進めることができたか。また、科学的な見方、考え方をより深めた科学リテラシーを育成・伸長していくため、日本学生科学賞やかながわ国際サイエンスフォーラム等への参加が促進できたか。</p> <p>⑤外部検定試験を活用した生徒は全体の5割以上となったか。</p>	<p>①職員の8割が授業評価の結果を迅速に伝え、生徒の状況を踏まえた授業展開ができた。また、論理的な見方、考え方を深める授業展開ができていたと教員は8割を超えた。</p> <p>②言語活動の充実に向けた取組では10項目中7項目で7割を上回った。共通テストの取組は8割が肯定的に答え目標値に達した。また、カリキュラム・マネジメントに係る研修の取組では肯定的意見は5割に留まった。</p> <p>③生徒による授業評価の項目4で「4かなり当てはまる」の回答は全教科で5割を下回った。</p> <p>④生物部及び有志チームは科学の甲子園神奈川大会に出場した。課題研究の取組では15項目中7項目で力がついたとする回答は5割を超えた。</p> <p>⑤GTEC導入を進めたが、短期留学生の受け入れ、スピーチコンテストへの参加は進まなかった。</p>	<p>○業務の効率化を進め、授業改善の方策の検討や校外研修等に参加できる機会を促進する。</p> <p>○授業展開の創意工夫など今後も改善策について各教科単位で検討を促進する。</p> <p>○アクティブ・ラーニングを踏まえた授業を進め生徒が主体的に学ぶ姿勢や態度の育成に努める。授業の中で科学的な思考力的重要性を周知し理数教育推進に向けた肯定的な意見を8割に引き上げる。</p> <p>○英検2級以上の生徒の把握を進めGTEC受験促進と英語コミュニケーション能力の育成を図る。</p> <p>○スピーチコンテストの参加を進める。</p>	<p>(学校評議員)</p> <p>○次年度70分授業になるが、実施に向けて教員間のコンセンサスはどのような状況か。</p> <p>(学校評議員)</p> <p>○70分授業については、第一回学校評議員会で説明を受けたが教員は不安だと思うが70分授業実施結果調査では教員の8割が「自信がある」と回答している。これまで取り上げきれなかったことも授業で扱えるのではないか。(学校評議員)</p> <p>○学校目標に対する取組状況を様々なアンケート調査で把握しているが、学校独自か、県で統一されたものなのか。(学校評議員)</p> <p>○アンケート調査結果は学力向上進学重点校やエントリー校など他の上位校とも情報交換していただけるとさらによいと思う。</p>	<p>○70分授業を導入した。授業の質と量の充実を図りその基盤を作った。</p> <p>○平成30年度入学生の教育課程を編成した。また3年選択授業の単位減に伴う課題に適切に対応した。</p> <p>○生徒による授業評価では、学年別教科単位での分析を示した。</p> <p>○時間制作成上の課題を整理し、職員全体で共有した。次年度科目担当の決定における条件を提示し作成に着手した。</p> <p>○定期試験、成績処理、調査書等作成では複数の点検システムで事故防止に努力した。</p> <p>○夏季講習では1年生の参加を大幅に伸ばした。土曜講習も高い参加率で実施できた。</p>	<p>○平成30年度入学生用教育課程の3年次の選択科目の検討を進める。</p> <p>○生徒による授業評価ではアンケート項目や取り方に改善や工夫を図る。</p> <p>○70分授業では3種の時間割を4週で回すことから生徒・教員ともその週の該当する時間割の把握ができるよう努める。</p> <p>○平成30年度入学生用教育課程の3年次選択科目について学校設定科目の再設定を含めて教科と検討を進める。</p> <p>○生徒による授業評価はアンケートの取り方を全科目一斉方式から授業毎で行うことで生徒の取組姿勢や教科担当へのフィードバックに改善が期待される。また、アンケート指定項目以外の項目を追加し、生徒のニーズに迅速に対応することで授業改善に活かす。</p> <p>○「スーパー・サイエンス・ハイスクール指定検討会議」を立ち上げ、校内外における諸課題の整理と検討事項をまとめ、SSH申請に向けた準備を進めていく。</p>
2 生徒指導 ・支援	<p>(1)豊かな人間性や協調性を涵養し自主・自律の態度を育成する。</p> <p>(2)「カウンセリングマインド」を指導の基軸とし生徒一人ひとりの自律的態度の育成を図る。</p> <p>(3)生徒の自主性や創造性を尊重し学校行事や部活動の充実を図る。</p> <p>(4)生徒の健康づくり、体力づくりを励行し、保健衛生や安全管理の徹底を図る。</p>	<p>①生徒一人ひとりが自他を敬愛し、礼儀を重んじ、自由と責任をわきまえた行動ができる姿勢や態度を育成する。</p> <p>②生徒一人ひとりに寄り添う指導から、生徒の自律的な生活態度の育成を図る。</p> <p>③部活動、行事や生徒会活動など生徒の活動の場を拡大する。</p> <p>④生徒会や委員会など生徒自らの取組みを教職員全員が支援し、安全安心な学校環境の整備を図る。</p>	<p>①マナーアップ運動、登下校指導を実施し、マナーと社会性ある行動を身につけさせる。</p> <p>②行事を活用して生徒自らが考えて行動できる指導・支援をとおり自主・自律的な生活態度や姿勢を身につけさせる。</p> <p>③部活動・行事と学習を両立し、自他を尊重し豊かな経験が得ることができるよう指導・支援する。</p> <p>④心身ともに健康的な学校生活が実現できるよう内外の教育相談等の機能を活用・連携をとおり生徒の支援を図る。</p>	<p>①マナーアップ運動等の取組により、生徒が恒常的に社会性のある行動がとれるようになったか。</p> <p>②生徒が自主・自立ある学校生活を送れるよう全教職員で指導にあたることのできたか。</p> <p>③学校行事等の生徒の満足度調査8割以上</p> <p>④教育相談等について情報提供をしていくとともに、心のケアが必要な生徒にはケース会議を開催するなど迅速に対応できたか。</p>	<p>①登下校中のマナーに関する近隣の問合せが減少した。交通事故報告数も10件から1件に減少した。</p> <p>②自主・自立ある生活を送れるよう全教職員で指導にあたることとなり 行事等の生徒の満足度は9割以上が肯定的であった。</p> <p>④校内教育相談担当者会議やケース会議を迅速に開催し課題解決にあたった。また保健室の利用状況などについて生徒の肯定的な意見が8割を超えた。</p>	<p>○指導月間では標語・ポスターなど生徒に制作を呼びかけ生徒自身の意識向上を図る。</p> <p>○生徒会活動の運営推進に関する補助・助言を促進し委員会活動内容の活性化を図る。</p> <p>○部長会組織を充実させ部活動加入促進につなげる。学年団、教科、教育相談担当、保健室が一体となった生徒情報の素早い共有を図る。</p>	<p>(保護者・学校評議員)</p> <p>○部活動に係る課題については生徒への学校側のきめ細かい支援など事案発生に対する適切な対応を今後も進めてほしい。再発防止に取り組んでほしい。</p>	<p>○HR、集会、ポスターで啓発、及び登下校時に立ち番指導により苦情が減少し改善した。</p> <p>○生徒組織が中心で主体的に実施した。</p> <p>○事前調整、指導を行い、安全意識・課題改善が計画なされた。</p> <p>○校内連絡体制の強化、いじめ防止等アンケート、教職員への啓発活動など、情報共有ができた。</p> <p>○夏季講習と校内合宿の期間の重なりが未だ解決できていない。また、校内合宿の食事提供の手段を工夫できないか。</p>	<p>○登下校時の通学マナーの向上や自転車事故の事前防止指導の強化を進める。</p> <p>○生徒会活動の活性化を通し生徒の主体的な活動を支援する。</p> <p>○充実した部活動を経験させ、心身ともに健康な生徒の発達を支援する。</p> <p>○事故の未然防止と部活動の諸課題への迅速な対応を図る。</p> <p>○通学指導では標語やポスターを活用し意識の向上を図る。</p> <p>○生徒会活動の運営推進に関する助言を実施し、委員会の活動の活性化を支援し、自発的・主体的な行動に結びつくよう具体的な取組方策を考える。</p> <p>○部長会を充実させる。</p> <p>○教育相談体制及び各種啓発活動を一層充実させる。</p>
3 進路指導 ・支援	<p>(1)学びに向かう力や人間力の育成などキャリア能力を高</p>	<p>①すべての生徒が科学に対する興味・関心を高め、科学的思考力の</p>	<p>①総合的な学習の時間における課題研究に科学的なテーマを取り上げることが推進する。</p>	<p>①自然科学系進学希望者を引き上げることができたか。</p> <p>②長期休業中の補</p>	<p>①1・2学年の在籍生徒の自然科学系進学希望者が増加した。</p> <p>②長期休業中の補習受</p>	<p>○理数教育推進を通して課題探究の取組を進め自然科学系への興味関心を高め理</p>	<p>(学校評議員)</p> <p>○探究活動でテーマは理数に限定しているのか、総合的な学習の時</p>	<p>○研究及び発表活動に繋げ、即興型英語ディベートへの参加など、グ</p>	<p>○探究活動ではこれまでの実績を踏まえ、3学年も含めた学校全体の取組としていく必要がある。</p>

		める進路指導・支援の充実を図る。 (2)生徒の現役での進路希望の達成を図る。 (3)進路指導マネジメントシステムを整備し個々の進路実現を支援する。 (4)キャリア教育実践プログラムの着実な推進と内容の充実を図る。	向上を図る。 ②自律的学習習慣の確立に向けた進路指導・支援を行う。 ③校内学力検討会等の実施と定期的な学力分析会の計画的・組織的な実施の強化を図る。 ④外部連携による特別活動や校外学習の機会を設定する。	②長期休業中の講習等の効果を上げるために、受講しやすい環境を整える。 ③模擬試験等のデータやデータ分析ソフトを活用したデータに基づく進路指導の充実を図る。 ④『総合的な学習の時間』をキャリア教育及び生徒の主体的な学びを引き出す探究活動の核と位置づけ、学年の進行に応じた学習内容の整備を行い、これを実践する。	習受講者が昨年度比で2割以上増えたか。 ③生徒の目標を高く持たせ、希望進路の実現が支援できたか。 ④基礎学力の充実とともに、キャリア教育の視点を踏まえた生徒一人ひとりの能力を伸ばすための授業展開が図られたか。	講師は577名なり前々年度298名と比較しても高水準で推移した。 ③学力向上進学重点校エントリー校の指標1～5達成は果たせなかった。 ④難関大学現役合格7名、スーパーグローバル大学トップ型の現役進学率は1割台に留まった。 ④基礎学力の充実とともに、キャリア教育の視点を踏まえた生徒の能力を伸ばすための授業が進められ生徒学力調査(3教科)平均得点率8割以上を達成できなかった。	工系進学者の支援を図る。 ○職員室前の質問スペースにスタンド等を設置し生徒が質問しやすい学習環境の整備・充実を図る。 ○学年別の模試の分析報告会の実施を検討し、報告会を学年会等に位置付け、多くの職員が参加しやすいような実施方法の検討を行う。	間のアプローチという面で参考になった。 (学校評議員) ○短期留学生の受け入れについて調査結果が落ち込んでいるがどう考えているのか。 (保護者) ○赤本の貸し出しを管理するシステムの導入では費用面で協力をさせていただいた。 (学校評議員) ○難関大学への進学指標がどうなっているのか。	ローバル教育を進めるきっかけをつくった。 ○学習計画表、学習記録表を用い学習習慣の確立に向けた支援を行ったまた、模試結果を活用し、学習状況の把握を行った。 ○模試分析報告会、出願指導検討会を実施した。 ○質問スペース、自習室スペースの環境整備 ○「赤本」の図書管理システムを改善した。	○生徒の科学的な探究活動がより充実したものとなるよう、各学年・教科との連携を密にして取り組んでいく。 ○模試分析報告会を年間を通して行うことができなかった ○出願指導検討会など新規取組みの推進に伴う職員の多忙化や負担感への対応を解消する。 ○学年間で書式を統一するなど、データ処理を汎用化し、模試分析報告会の準備を軽減する。
4	地域等との協働	(1)「多摩高へ行く日」等の工夫・改善をとおして教育活動の情報発信の充実を図る。 (2)ホームページの一層の充実を図る。 (3)教育活動のネットワークを広げ学習機会の拡大と教職員の指導力向上に資する。	①開かれた学校づくりと多摩高の魅力の情報発信する。 ②ホームページの更新に努め魅力的なホームページの作成に取り組む。 ③教育資源や人材などネットワークの拡大に向けた取組みの充実を図る。	①保護者や地域の方々、他校に開かれた授業公開を行うとともに、中学生とその保護者への情報発信を学校行事やホームページで行う。 ②グループが所管するコンテンツの見直しをとおしてタイムリーで魅力的なホームページの作成に取り組む。 ③学校運営協議会制度に係る課題を整理し評価部会の立ち上げを実施する。	①5教科以上の他校参加型授業公開(研究協議会含む)が実施できたか。 ②各グループが所管するホームページの内容に創意工夫がみられたか。また、ホームページ内容の更新回数が増加したか。 ③学校運営協議会制度に係る課題を整理できたか。	①5教科以上の他校参加型授業公開(研究協議会含む)が実施できた。 ②職員の半数以上がホームページの内容に創意工夫が見られたとしており、ホームページ内容の更新回数は増加した。 ③学校運営協議会制度に係る知識、理解は進んだが、課題整理には至っていない。また、評価部会の立ち上げは実施できていない。	○アクティブ・ラーニングを踏まえた授業を進める。 ○特色ある教育活動の内容をホームページで情報発信する。 ○学校運営協議会制度における評価部会立上に向けた準備を進める。	(地域、学校評議員) ○生徒が毎日、駅から通ってきているので、多摩高校がここにあるということは地域にとってとても難しいことであり、生徒が地域住民とがもっと繋がりを持てる取組があると良いと思う。3月の合同避難訓練を行うことになっていたので、今後ともよろしくお願ひしたい。	○学校説明会を8月・12月の2回開催。事前予約システムを導入した。 ○夏季休業中の学校見学については、平日に一日4回設定し、今年度より2人体制で対応することで職員の負担を軽減した。 ○ホームページの更新を年間を通して情報発信した。	○新規事業を立ち上げの際、持続可能な内容にするなど既存事業のスクラップアンドビルドを徹底して職員の多忙化の解消や負担感の軽減に取組む。
5	学校管理 学校運営	(1)企画会議の機能を強化するとともに、全教職員への情報共有や経営参画意識を向上する。 (2)学力向上進学重点校エントリー校として、基礎・基本の徹底を図り、生徒一人ひとりの能力を伸ばすための授業を展開する。 (3)安全で安心な学校環境の整備を図る。 (4)計画的・効率的で適正な予算執行に努める。 (5)事故不祥事防止の徹底を図り、県民の信頼を確立する。	①企画会議と各グループとの相互のコミュニケーションを図り、自発的な人材の育成をとおして全職員の経営参画意識を高める。 ②授業の質と量の確保等、喫緊の課題を職員全体で共有し平成30年度入学生に向けて、課題解決の方向性を検討する。 ③旧校舎除却及び外構工事に伴う校舎内外の環境整備に努める。 ④県費・私費の計画的、効率的な予算執行に努める。 ⑤教育公務員としての高い倫理意識と法規法令遵守を徹底し事故の未然防止に全力で取り組む。	①学校教育計画に基づき、各グループが組織の目標を設定し中間及び年間の評価の総括を実施する。 ②学習の状況の把握を確保を図る。 ③旧校舎除却及び外構工事に伴う諸課題や新校舎の清掃計画と円滑な実施をする。 ④日常的な点検・確認を通して適正かつ効率的な事務手続きの徹底を図る。⑤定期的な日常点検を確実にを行い、職員一人ひとりの事故防止への意識の向上に努める。	①企画会議を中心に組織間の連携を図り、カリキュラム編成等について、具体的な検討が行われたか。 ②喫緊の課題を解決するための組織体制を確立できたか。また授業時間を確保できたか。 ③各グループ及び事務室等が連携して、旧校舎除却及び外構工事を円滑に進めることができたか。 ④予算や決算、執行、また業者選定等が適切に行われたか。 ⑤施設・整備の日常的な安全点検をとおして迅速な修繕対応に努められたか。また、入学者選抜業務に係る事故ゼロを達成できたか。	①企画会議を中心に組織間の連携を図りカリキュラム編成や年間行事、授業日課等の具体的な検討が行われた。 ②喫緊課題の解決に向け校内組織体制の確立ができたとする職員は4割台に留まった。授業短縮や行事運営の改善を進め授業時間確保を促進した。 ③旧校舎除却の計画が延期したため企画が先送りとなった。清掃計画はグループ及び事務室が連携して円滑に進めた。 ④県費・私費の予算や決算、執行、業者選定等が適切に行われ、公費と私費の区分が徹底され適切な予算執行が図られた。 ⑤丁寧な窓口対応や電話対応マニュアルの配付など取組が進んだ。施設・整備の日常的な安全点検をとおして修繕対応が図られた。校内研修やマニュアルの改訂が進み入学者選抜業務事故ゼロを達成できた。	○授業時間の確保と行事との適切な時間バランスの検討を進める。 ○新校舎の清掃・美化を推進する。 ○予算請求内容を洗い直し学校全体の優先順位の高いものから予算案作成し執行事務改善を検討する。 ○日常点検チェックを継続して実施し、安全点検意識の向上を図る。 ○入学者選抜業務に向けて事故・不祥事ゼロを達成できるよう校内研修を進める。	(学校評議員) ○不祥事防止に係る日常点検チェックシートの取りまとめについて、個人情報の取扱いについて調査結果の中には0%でなければならぬ項目があるがどのように考えているのか。	○行事と学習活動のバランスを検討し、生徒の積極的な学校生活の参加を図った。 ○70分授業と授業時間確保のため、グループ・教科と調整を図った。 ○計画的な予算配分を行い、適正な執行状況をチェックした。 ○新校舎の美化維持に努め、美化委員による美化活動の充実を図った。 ○保護者に奨学金の説明会を開催し手続きの円滑化を図った。 ○DIG研修を通して、生徒、職員の防災意識をさらに高めた。 ○地域貢献活動や、部活動の他校交流でボランティア意識を高めた。	○授業時間の確保と各種行事とのより適切な時間バランスの検討を進める。 ○各グループ・教科の予算配当の検討と、適切な執行の慎重なチェックする。 ○防災訓練内容を工夫し、生徒の防災意識を一層高める。 ○各グループ・教科と協力して、年間行事計画を、本校の特色と将来を見通しながら、継続的な計画・立案を図る。 ○予算請求内容を洗い直し、学校全体にとって優先順位の高いものを精選して、予算案作成を図るとともに執行事務の改善を検討する。 ○十分な情報収集を行い、防災訓練の実効的な効果を検証して、学校全体に防災意識を啓蒙して、有事の際のシミュレーションを積極的に行う。